

(様式1)

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 地域社会の一員として、様々な活動に参加するなど、自分の生活を楽しむことができるような自立した生活の実現を積極的に支援する。 2. 自分らしく生きることを支援する。	○	縄文時遊館で行なわれている「いきいき教室」へ一年を通し数回出掛けたり、三内児童館と交流を持ち、入居者が練習した歌など発表したり、児童達や母親クラブの方々も施設へ訪問されている。また、入居者は自由に外へ散歩され花を摘んだり、近隣の人と話をされたり、敷地内に植えている野菜や花に自らの役割として水をかけ楽しめられている。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、夕のミーティング時や会議中で理念を共有している。又、管理者、職員は利用者を囲んでの団欒の場や個別にも利用者との会話を大切にその人の楽しみを聴きだしたり、自分らしく生きることについて話しをしている。	○	最初レクリエーションの一環として始めたピンポンが練習の末卓球と呼べるようになった。職員が呼び掛けなくても、自ら卓球を練習するようになる。上達して行く利用者を見て、あまり動かない利用者も練習するようになり相乗効果が生まれた。自分達の力を試したいとの声があがり、他のGHとの交流試合が実現した。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来所された方達がいつでも見れるように施設内の何箇所に提示したり、家族に対しても説明しており又、近隣の人達との会話の中で説明している。推進会議でも町内会会長や民生委員に話しをして理解して頂けるように取り組んでいる。	○	地域の人や近隣の人達がお宮にあった絵馬を軽トラに積み町内を回っていたので、民生委員のご協力もあり、お願いした所、喜んで施設駐車場まで入って頂き、太鼓や鈴の演奏をして下さいました。利用者も外に出て直接触れ一緒に踊ったり、窓から身体を乗り出し手を合わせ拝んでいました。近隣の人達が「又、来るからね」と利用者と一緒に約束していました。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	天気の良い日は毎日のように入居者と外気浴をしている為、近隣の人達と話しをする機会も多く、また施設の後ろが野菜畑で散歩しながら仕事をされている方達とお互いに自然と会話している。管理者や職員は常に近隣の人に声掛けを行い、気軽に立ち寄ってもらえるようにしている。町内の新年会等に参加し、交流を持ち話し合ったりしている。又、職員が自分の知り合い等に呼び掛け、歌のコンサートや三味線などの訪問を依頼したり協力し合っている。	○	近隣の人達と常に会話をしている事から、近隣の老人が「炊飯ジャーの中ぶたがセット出来ないから、ちょっと、家に来て見てくれないか」と頼みにきたり、認知症の為、「高齢者が道に迷って座っていたから連れてきたんだけど」等、相談に来られている。又、職員の知り合いで農家をやっている人からハウスの中でほうれん草を栽培しているが少し伸びた為、市場に出せないから収穫にきてはと言われ、早速、入居者に話した所、経験してみたい等の声が上がリ計画を立てた。ほうれん草が育っているのを見たことのない人や、昔に少しかだけ農家をやった人など様々あり、1週間をかけて毎日、数人ずつほぼ全員が収穫に行った。近所の人達も来てくれ話も弾みながら沢山収穫した。入居者達は自分の家族に「私が取ってきたほうれん草だから食べて」とあげていた。施設に来た人達にもおすそ分けし「大変、美味しかった」と感謝の言葉を頂いている。夏にはスイカやメロン、とうもろこし等の収穫も考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
6	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	運営推進会議の中で、民生委員達や家族の協力もあり、地域の行事や祭り事、入居者達の出来る範囲で参加しています。
7	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
8	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
9	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10 ○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に対しては事前に十分な説明をして不安のないように納得して頂いている。	○	入所前に利用者、家族に施設内を見学していただき、契約や解約に関して十分な説明を行い納得してもらっている。
11 ○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明書のサービス内容に関する苦情の項目に施設外の苦情相談窓口も明記している。また施設内では苦情の申し込み用紙、ご意見箱、苦情処理簿を作成して苦情処理に取り組んでいる。常に利用者と会話をし、意見など言える体制をとっている。	○	利用者の言動や行動から変化を察知し、職員全体で話し合い、その後、個別にさりげなく聞き出すようにしている。
12 ○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者の近況報告として受診状況、生活面、認知症状況、その他として行事への参加、金銭管理など記載して送っている。また、月1回のホーム便りとして新聞を作成し、一緒に送っている。	○	利用者一人ひとりの近況報告(通院状況・生活状況・認知症状況・その他)金銭に関しては使用したもののレシートを添付して1ヶ月に1回家族に送付している。
13 ○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明書のサービス内容に関する苦情の項目に施設外の苦情相談窓口も明記している。また施設内では苦情の申し込み用紙、ご意見箱、苦情処理簿を作成して苦情処理に取り組んでいる。月1回の近況報告を送付することにより、家族の面会時には必ず会話をしているため、スムーズに意見交換が行なわれている。	○	近況報告のその他の欄には来所や意見、要望についての呼び掛けをしている。
14 ○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り時、月1回の会議時、または勤務中でも意見や提案を聞く機会があり、ゆとりを持って勤務にあたっている。	○	職員からは活発な意見や提案があり、話し合いながら良いことはすぐ実行できるように全員で協力している。
15 ○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の不穏時に職員が他の仕事が忙しいとそのままにしておくのではなく、職員同士が連携を取りながらその利用者に対し時間をかけてケアに取り組んでいる。家族の面会に関してもゆっくり会話のできる勤務体制である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より朝夕の2回、A・B棟の両ユニット合同で申し送りを行なっているので、他ユニットの状況も知ることが出来る。又申し送りノートに確認した印を押すようにして確実に伝わるようにしているため職員は利用者の個々を把握している。	○	A棟からB棟へ歩行練習のため出向いたり、散歩なども自由に行なっている。又一緒に外への散歩や日向ぼっこ、おやつタイム、レクリエーションの場をともにしている。
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の会議や学習会(報告会)を実地している。又、グループホーム協会の研修や老人福祉施設新任職員研修、ヘルパー受講への参加等研修の機会を確保している。	○	今年も職員が働きながら介護福祉士の資格を取得し、学習を通して知識、技術の取得とともに人間交流の進展を図っている。
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム8ヵ所で、処遇困難事例の話し合い、勉強会、空き情報等、職員同士のステップアップと共に利用者のサービス向上を目指して取り組んでいる。	○	グループホーム協会に加入し研修会や講習会に参加している。又同業者(連携グループ)困難事例検討会にも職員が参加して、お互いのサービスの質の向上に取り組んでいる。
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	各現場での問題点などの話し合う機会を持ったり、職員のシフト作りでは一人ひとりの要望を取り入れたり、楽しい雰囲気の中で仕事して頂いている。	○	休みの希望や急な用事(子供の学校関係、葬式、病気等)で休まなければならない時でも連絡して頂き希望に応えられる勤務体制にしている。又、土、日など職員の子供を見る家族がいない場合など、あるいは迎えにくるまで施設で利用者と遊んだりして過ごされている。
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者のケアの方法やさまざまなレクリエーションのやり方、コミュニケーションの取り方についてなど、その場に応じて働けるように自由に意見が述べられるようにしている。	○	楽しい職場であり、職員達がそれぞれアイディアを出しながら、いろんな行事等に向上心を持って前向きに取り組めるようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21 ○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学から入居申し込み、利用に至るまで本人、家族等の相談を受け困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き、受け止め引続き入居されてからも話し合いの場を作っている。	○	目前の問題の解決、対応にとどまらず「利用者がどのような人生、生活を送るのが一番良いのか」というように、利用者一人ひとりについて個別的・個性的な目標を立てて「最も幸せな人生の状態」を作っていきたいと思っています。
22 ○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学時の初期対応の内容を見極め、入所に関してばかりではなく、本人・家族の相談内容に応じて行なっている。	○	単に入居の希望を聞くのではなく、表現された希望を通し、その奥にある真のニーズを掴むことであり、家族へは十分説明し、話し合いながら対応に努めている。
23 ○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の意見を十分に聞きながら安心して生活できるように、職員一同、サービス内容について検討して工夫している。	○	毎月家族との話し合いをもとに、利用者の処遇に関することを会議等で話し合っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24 ○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者もかつて身につけていた技能や生活の知恵が残っている人も多くいます。利用者から教えられたりしている職員もいます。学びながら暮らしています。利用者のできることに関心を持ち、役割や生きがいと一緒に探し、支えあう関係である。	○	利用者の中には、昔、踊りの師匠とか、習字の先生がいて教えて頂いたりしている。又、漁師だった人もおり、男性職員は魚の釣り方等を聞いたりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と話しやすい雰囲気のもとで、お互い協力し相談し合いながら行なっている。	○	家族に対し行事等への参加を呼びかけたり、利用者と共に食事をして頂いたり、気軽に立ち寄って相談したりしている。
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が認知症介護に対しどのような思いでいるかを受け止め、支持することが大切であり、利用者と家族のニーズが相反することもあるが家族が支え手として自信をもてるように支援している。認知症により家族に対して誤解の部分など少しずつ取りほぐし、良い関係が築いていけるように支援している。	○	認知症により子供の名前を忘れている利用者に、日常的に家族の話しや子供(名前)のことを話し、家族が訪問されたときに利用者から名前を呼ばれて家族も喜ばれていた。又、家族にも出来る限り施設へ足を運んでほしいことを伝え、協力を得ている。
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設へ入所していながらも、これまでの友人や知り合いの人たちが気軽に来れるように利用者や家族と連絡を取りながら行なっている。	○	いままで暮らしてきた近隣の人達や昔の友人など来所されたり、又、利用者も出かけられている。
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のこれまでの生き方や趣味など把握して、レクリエーションなどを通して関わり合っていくように支援している。	○	職員が見守る中で、利用者一人ひとりが役割を持ち成功や失敗の事例も貴重な体験として捉え、さまざまな出来事や活動にも意欲や関心を持たせ行なっている。
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の健康状態により1ヶ月以上の入院により退所された利用者や家族に対して、連絡や見舞いなど行なっている。又、他施設に入所された利用者には訪問したりしている。	○	家族からは病院から退院したら又、当施設へ入所したいからと待機者名簿に記入していかれる。職員達も自発的に見舞いや訪問に行きたいと述べ、自分の休みを利用して行かれてる人もいて「元気だったよ」と報告してくれる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	好き嫌いのある利用者には、本人の意向を聞きだし別メニューを出したり、本人の馴染みの美容院に送迎したりと信頼関係を築きながら利用者本位に行なっている。
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	利用者はこれまでの人生のなかでさまざまなライフイベントを経験してきました。個人にどのような影響をもたらしたかをみることは、その人の生活をとらえていくうえで非常に重要であるため、利用者の変化を見逃さず、十分に観察し会話をしながらお互いの信頼を深め、理解し把握に努めている。
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	職員は利用者とのコミュニケーションの中で、その人の持っている潜在的な能力を引き出し、自分らしく生きることを支援しながら行なっている。その情報を職員全員が把握できるように話し合いをしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	利用者がより良く生活する課題として、一人の力や一つの機関によって支えられるものではなく、コミュニティ(地域)チームによって行なわれることも必要であり、その中にはインフォーマルな資源も含めて構成されており、共通の言葉と共通の理解が得られれば、利用者にとってチームは安心であり、これからも、地域と共に支え合う関係を築いて行きたいと思う。
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	家族に対しては1ヶ月に1回の近況報告(受診状況、生活状況、認知症状況、その他、ケアの内容)を送付しているので来所された際はスムーズに話し合いが出来る。又、家族より「施設での生活ぶりが良くわかってありがたい」と言われている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者、一人ひとりの個人ファイルにはバイタル測定や排便、排尿の回数、通院名、日付、薬の内容等を記入し、個別のケース記録簿にはその時の利用者の様子や出来事、職員の対応やケアの内容等を記入し、又、介護日誌や申し送りノートに特変事項を記入して朝、夕の申し送り時に利用者全員の事を申し送りしている。	○	利用者が受診された際には個別の受診ノートに、医師との会話や利用者の訴え、次回受診日等を記入している。又、家族等の訪問の際には意見や要望等を記載している。日々の様子や特変事項など職員全員が把握できるようにして、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診に関しては、家族が不都合な時は施設側で通院や送迎するなど、常に家族と連絡を取り合いながら行なっている。	○	本人と家族の状況に応じて、入所以前から受診されている病院に施設の職員が通院や送迎等を行い、必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるように支援している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向(子供が大好き)に応じて、民生委員の協力により地域の児童館と毎年交流をを深めている。児童館の子供達が施設に訪問されたり、利用者が児童館へ出向いたりしている。今年は三内地区の消防団の人達が施設でまとい振りを披露して下さり利用者は手を叩いて喜んでいました。	○	昨年、近くの中学生12名が2日間ボランティアに来て下さり、利用者と一緒にレクリエーションを行い楽しまれた。今年も連絡済みで楽しみである。母親クラブとも連絡が取れている為、近くでフリーマーケットが行なわれ参加している。
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームに入所中であるため他のサービスの利用が出来ない。		
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所前から地域包括支援センターを活用されている利用者の長期的なケアマネジメント等についてなど、相互に協働しながら支援を行なっている。又、地域包括支援センターとは運営推進会議で助言等を頂きサービスの質の確保・向上を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切にかかりつけ医を受診している。	○	入所前からのかかりつけ医や本人が希望する病院への通院を行なっている。
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者、家族と相談しながら認知症に関する診断や治療を受けられるようにしている。	○	認知症が進んできた場合は、家族と相談のもと専門医を受診している。
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院から直接入所された利用者については、訪問看護して頂いている。又、担当だった看護師に相談しながらケアを行なっている。	○	現在、精神科から入所された利用者の場合、4週間に1回の訪問看護をして頂いている。看護師からは「長い病院生活だったのにすぐに打ち解けて、本人もすごく満足しています」との言葉も頂いている。
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時やその後も状態を医師等に伺ったり、家族の相談を行なっている。	○	入院された利用者について、早期退院に向けて家族や医師と話し合いを行なっている。
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については早い段階から家族、かかりつけ医と話し合いを行い全員で方針を共有している。	○	現在、病気をしている利用者については家族、かかりつけ医と施設側と話し合いをして、状態を見ながら病気が悪化した場合は病院で入院受け入れ態勢をとってくれるなど話し合いを行なっている。
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族に利用者の重度に向けて希望に添えるように話し合い「出来ること、出来ないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとして支援している。	○	重度や終末期の利用者が施設で日々をより良く暮らせるために、かかりつけ医とともに連携を取りながら、往診をお願いしたりしている。又、入院された後も、今後の変化に備えて検討し退院後の準備(老健)を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の生活状況、通院状況等の情報を詳しく文章にしたり、口頭で伝え、十分に関係者間で話し合い連携しながら行なっている。	○	利用者が退所された後も職員が訪問先へ出向いたり、家族と連絡を取ったりしている。自宅からグループホームに入所された方や家族には、今まで使用していた物(タンス、掛け軸等)そのままの持込をお願いしている。中には利用者本人が以前作ったパッチワークを居室に飾っている方もいる。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は人生の先輩として、尊敬の気持ちで接し、自尊心を傷つけないような言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いは必ず家族や利用者の同意を得ている。	○	職員には雇用された時に同意書(雇用期間又は、退職後正当な理由なく常務上知りえた利用者又は、ご家族の秘密を第三者に漏らしません)を作成し、同意を得ている。
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に利用者の話を傾聴し、利用者一人ひとりの力量に合わせた説明を行い自己決定を尊重している。	○	職員が指示するのではなく、あくまでも利用者本人の意思を尊重しながら、納得してから決定出来るように支援している。
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、行事等にも無理に勧めるのではなく状態を観察しながら希望に沿って支援している。	○	ホールでレクリエーションを行なっている際、居室で音楽を聞いている利用者や休まれている利用者に対しても声掛けや見守りを行なっている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望により洋服の買い物に出かけたり、希望の美容院まで送ったりしている。服装は自由であり利用者は個性的に着こなせるように支援している。	○	時々、職員が女性の利用者に化粧をしてホーム内を散歩され喜ばれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間に一回程度のアシストを実施している。利用者からの希望があれば、その週や次週に取り入れている。食事の準備や後片付けは利用者、職員と一緒にやっている。	○	利用者の健康状態に合わせたり、好みでないものや食べられないものがある場合は別メニューにしている。
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は必ず利用者に聞いて、その時に飲みたい物をだしている。喫煙も決められた場所で自由に吸われている。	○	お酒は利用者の身体の状態を踏まえ、利用者、家族や医師と相談の上、飲んで頂いている。
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的なトイレ誘導をしている。排泄チェックを行い排便の確認をしている。排泄の誘導も利用者のプライバシーを損ねないように配慮しながら行っている。	○	定期会議や申し送り等で、利用者一人ひとりが気持ちよく排泄出来るように話し合いをしている。トイレ誘導をする時も他者に聞こえないように気を配りながら行っている。
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めてはいるが、希望であればいつでも入浴、シャワーは可能である。	○	夏季の入浴やシャワーを利用されている利用者が多く、日中は外での足浴も行っている。
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室なのでいつでも自由に休息ができ、夜間も安心して眠っていただくように見回りをしている。	○	昼寝については利用者の状況を見ながら長く取らせないように(昼夜逆転)声掛けや散歩などしながら支援を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生きてきた時代やその当時の状況を背景に利用者が趣味や楽しみに出会ったいきさつや思いを十分に傾聴し、職員と共に見つけ出している。	○	花や野菜を育て毎日水をあげている人、若い頃夫婦でクリーニング屋を営んでいたため洗濯たたみやおしぼりたたみが得意な人、歌が大好きな人、習字の先生等、毎日の生活やレクリエーションの中に取り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の意思によりお金は所持されている。買い物の希望があれば職員同行で実施している。	○	施設内の自動販売機や、近くのスーパーや洋服の買い物などに出かけている。
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により車で目的地まで送迎している。天候により付近の散歩を行なっている。	○	天気の良い日は毎日のように、施設の前に椅子やテーブルを運び、おやつを食べたりレクリエーション等を行なっている。施設の建物の周りの散歩、付近の散歩、駐車場だけの散歩と一人ひとりその日の希望にそって家族や職員と同行で出かけている。
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の外出申しでにより家族へ連絡を取り一緒に外出されている。又、施設で遠足も行なっている。	○	利用者全員、職員と共に観桜会や水族館見学等に出かけている。近くの公園に出かけ誕生会やレクリエーション等も行なっている。
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があればいつでも電話や手紙はできるように支援している。	○	電話、手紙や年賀葉書なども行なっている。子機を使って頂き居室で自由に電話をされている。
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月送付している近況報告にて訪問を呼びかけている。訪問時には楽しんでいただけるように、プライベートルームにて過ごしていただいている。	○	利用者の友人、幼馴染、近隣の人たちが気軽に訪問されている。家が近くの利用者は職員と出かけたり、馴染みのお店に立ち寄り会話を楽しんでいる。
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し身体拘束ゼロに取り組んでいる。施設研修会を行なって職員全員が理解している。	○	今後も身体拘束ゼロを目指して行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関などに鍵をかけないケアを行なっている。	○	利用者(帰宅願望)が玄関から出ても、無理にとめるのではなく、職員と一緒に外を散歩したり、話を聞きながら歩いて気分転換を図っている。又、強風や雨など寒い日以外はほとんど玄関はオープンにしている。
64	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者を見守りできる位置にあり、状態を観察しながら安全に配慮している。	○	入浴では一人で入れる利用者についても、介助を必要とする利用者についても、声掛けをして了解を得てから戸を開けたり、着脱時も外へ出た方が良いのかを確認して行なっている。
65	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりを観察の上、状態に応じハサミやナイフ等を持たせている。	○	普段、ナイフなどを持っていない利用者でも、ホールで職員が見守りしながら利用者と共に包丁でりんごの皮をむいたり、野菜を切ったりしている。保管に対しては家族へ報告と本人に納得して頂いてから行なっている。
66	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に火災訓練、避難訓練を行っている。又、行方不明対応策のマニュアルを作成し施設内で講習を行なっている。職員全員が救急救命法を終了している。	○	日本防災興行の職員に来て頂き、消防署と連携を取りながら火災訓練、地震避難訓練も行っている。
67	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年6月に、第2回目の救急救命法講習会を職員全員が終了しているが、3年に1回の講習会が必要なため今後も続けていきたいと考えている。又、緊急時のマニュアルを作成し提示したり施設内研修を行なっている。	○	1年に2回の消防署と連携を取りながらの火災訓練、地震避難訓練と施設だけの避難訓練を2回行なっている。火災対応マニュアル、緊急時対応マニュアル、地震災害マニュアルを作成し貼付して、施設内講習会を行なっている。
68	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	年に2回消防署と連携を取りながらの火災訓練と地震避難訓練、施設内でのみの避難訓練を行っている。災害時において避難食(缶詰、乾パン)飲み水、毛布、ポータブル便器等を用意し定期的に交換している。	○	運営推進会議において災害対策として地域との連携を取り協力を得ながら行なっていくことを話し合っている。(避難場所として提供等、地域の人々との協力)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	日常生活を観察し、家族に毎月近況報告を送付している。又、来所時には口頭での説明や話し合いも状況に応じ行なっている。	○	近況報告は利用者の(通院状況、生活面、認知状況、その他)を毎月家族に送付している。その他の欄には家族からのご意見やご要望、行事等の連絡、来所された時の話し合いについての報告も記入し送付している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床後のバイタル測定を行い、高値の利用者は再検を行っている。一人ひとりの顔色や食欲など観察し、介護日誌に記入、排泄のチェックを行い申し送り時に体調の変化などを報告し話し合っている。	○	体調の変化、異変には常に職員が観察を行い、発見した時にはすぐに管理者に報告、病院等に連絡や指示を受けるなど対応をしている。
71	○服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬説明書を個人記録簿に綴り、職員全員が確認できるようにしている。副作用や薬効など記入することに努め、次回受診時に医師に報告している。	○	個人の受診ノートを作り、病院の医師からの指示、利用者の訴え、次回受診日を記載し、職員全員が把握できるようにしている。
72	○便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人に合わせた運動やバランスの良い食生活を考え、摂取して頂くようにしている。又、水分補給の声掛けやチェックをしている。	○	便秘予防のために食物繊維の多い食品を取り入れている。又、歩行運動や散歩、リズム体操など身体を動かすように利用者一人ひとりの体調を見ながら行なっている。
73	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行うように支援している。	○	朝、夕の歯磨きは全員行なっている。毎食後は歯磨きする方、うがいだけの方、入れ歯を外して洗う方、それぞれ全員が行なっている。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関と連携を取り、体重維持などに気配りをしていいる。一人ひとりが十分な水分摂取を行なえるように利用者の好む飲み物を揃えている。	○	体調や不穏等にて摂取しない時などは食事を観察しながら、時間をおいてから好みや食べたい物を作り、少しでも摂取して頂けるように工夫している。好き嫌いのある利用者には別メニューを作っている。水分量は毎日記録をし観察を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎年、予防接種を実地している。その他感染症に対しては、手洗い、うがいなどを徹底している。又、施設内研修においてマニュアルを作成し感染予防について話し合いをし取り組んでいる。提示もしている。新型インフルエンザの予防に対して、より一層のうがいや手洗いを指導し利用者の受診時にマスクの着用を指示している。	○	インフルエンザは利用者、職員と全員が予防接種を行なっている。施設からの出入り時(訪問客等)には玄関先に消毒剤を設置している。提示物(感染予防の基本は手洗いから、ノロウイルス、食中毒予防早見表)等を手洗い場や廊下など誰でも見れる場所に貼っている。食事前、おやつ前、トイレ後には手洗いをし、全員で予防に取り組んでいる。
76	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等は使用後に洗剤洗浄、ハイター消毒、アルコール消毒剤で消毒している。鮮度に気をつけ賞味期限内に使用している。大型業務用冷蔵庫、ストッカーに保存している。	○	野菜や肉類は業者に新鮮なものを配達依頼している。冷蔵庫の中は定期的に日にちを決め掃除を行なっている。冷凍食品は夏場は自然解凍は避けている。食材や食品を扱う場合や厨房に入る前などは十分に手洗いをするようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには花や野菜を植え、ほのぼのとした玄関を作っている。季節や天気により玄関ドアを開放している。	○	夏季には強風や雨の日でない限り、ほとんど開放し自由に出入りを行い玄関前の花や野菜を観賞されている。
78	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、トイレ等広いスペースをとってあり、居間もゆったりとした雰囲気をつくっている。廊下や居間には季節毎に飾り物を利用者と職員の手作りの作品を提示して生活感のある居心地のよい共有空間としている。又、観葉植物や花なども置いている。	○	ホール、吹き抜けの天窓、トイレや浴室、廊下など広いスペースを使い、季節感を味わって頂くために季節ごとの飾りつけを共に工夫している。
79	○ 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルを囲んでのソファを設置し、気のあった利用者が雑談したり、それぞれ趣味を生かしたり、レクリエーションを行ったりしている。	○	食卓テーブルでは食事時以外は利用者がペン習字やトランプ、カレンダーの色塗り、卓球等を行い、居間のテーブルを囲んで卓上ピンポン、ソファに座ってゆっくり読書など楽しんでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者個々が今まで住み慣れた家で使用、利用してきた物を持ち込んで頂いている。又、本人の好きなものを職員と一緒に作り飾っている。	○	筆筒、衣装ケース、テーブル、テレビ、位牌、写真等を持参しており、それぞれ個性あるものとなっており、居心地良く過ごされている。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常時換気扇を動かし、空気がこもらないようにしている他に毎日1回以上は窓を開け換気を行なっている。	○	毎日、掃除の時間帯には天気の状態を見ながら窓を開けている。利用者の体調や希望に合わせ1枚多く着て頂いたり、床暖やエヤコンを活用しながら温度調節を行い、気になる臭いのないように、その都度清掃もこまめに行なっている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレ、風呂等に手すりの設置、段差のない建物(バリアフリー)、車椅子の利用者でも使いやすいように合わせて調節している。	○	玄関には腰掛を用意して、利用者が独りで履脱できるようにしている。トイレも広くとっているため車椅子の利用者でも不自由なく利用できる。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一日のスケジュールの貼付、風呂やトイレ、居室の案内板の設置など行なっている。	○	トイレの前に目印を付けたり、自分の居室を間違えないように表札を掲げたり、本人の好きな花の名前や果物の名前を貼っている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内で歩行訓練を行ったり、廊下を利用してレクリエーションを行なっている。	○	廊下の壁に施設内新聞や写真、利用者が作った張り紙等を貼ったり、いつでも見れるよう楽しんでいる。又、ホールを利用してスポーツ大会やクリスマス会等行事を行なっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個性豊かな人材であふれている為、その都度助け合える体制であり、個々のアイデアをレク等に用いている。天気の良い日には外で足浴を行っている。入居者の希望もありホールを居酒屋風に飾りつけ、のれんを下げたりし、雰囲気を楽しんで頂いている。当施設では県外等で仕事をされている入居者の家族(子供や兄弟等)の為に、一緒に泊まりながら充実した時間を過ごして頂く為に家族室を設けている。